

鉄道総研の

技 術

遺 産

File No. 15

床次竹二郎と鉄道

■ もうひとつの胸像

鉄道総研の講堂前には、本誌2012年9月号で紹介した後藤新平の胸像とともに、床次竹二郎の胸像が鎮座しています。後藤新平の名は、南満洲鉄道総裁、鉄道院総裁、帝都復興院総裁、東京市長として知られていますが、床次の知名度は必ずしも高くありません。

胸像は、後藤新平と同じ彫刻家の朝倉文夫によるもので、1937(昭和12)年12月に鉄道省庁舎の完成を記念して、両者を追慕する鉄道職員の拠出金によって庁舎内に設置されました。この胸像は戦時中の金属供出で失われますが、1983(昭和58)年5月に国鉄OB会創立三十周年を記念して、国鉄中央鉄道学園構内(東京都国分寺市)に再建され、同校の閉鎖とともに鉄道総合技術研究所に移設されて、今日に至っています。

今回は、もうひとつの胸像の主である床次竹二郎について紹介してみたいと思います。

■ 床次竹二郎とは？

床次竹二郎は、現在の鹿児島市新照院町で士族・床次正精^{まさよし}の長男として、



①内務大臣の頃の床次竹二郎
(1867～1935)

慶應2年12月1日(旧暦)に生まれました。生家は、1877(明治10)年、西南戦争の最期の激戦地となった城山の至近で、まだ幼少時のできごとでしたが、出陣する西郷隆盛の姿は、少年に強い印象を与えました。

父親の正精は東京に出て、司法省や宮内省を経て判事となりましたが、肖像画家としても活躍し、西南戦争後の竹二郎は、父に従って上京しました。1890(明治23)年7月に帝国大学法科大学政治学科を卒業し、大蔵省に入省して官僚となり、会計主務官などを経て宮城県参事官、岡山県警部長、山形県、新潟県、兵庫県、東京府の書記官を歴任し、1904(明治37)年には徳島県知事となりました。さらに、秋田県知事、内務省地方局長、樺太庁長官、内務次官と進み、1913(大正2)年2月20日付で後藤新平の後任として鉄道院総裁に就任しました。それまでの鉄道院総裁は、大臣が兼任していましたが(後藤は通信大臣兼任)、床次ははじめて総裁専任となりました。



②鉄道総研の床次竹二郎胸像
(東京都国分寺市光町)

翌年4月16日付で総裁は、仙石貢となりますが、1918(大正7)年9月29日付で内務大臣兼鉄道院総裁に就任し、1920(大正9)年5月15日付で鉄道院が鉄道省に昇格するまで、総裁の任にありました。1928(昭和3)年には衆議院議員に当選し、1931(昭和6)年12月13日付で鉄道大臣となりますが、翌年5月26日付で辞任しました(後任は三土忠造)。そして、1934(昭和9)年には通信大臣に就任しましたが、在任中の1935(昭和10)年9月8日に病のため急逝しました。

■ 広軌改築の中止と後藤新平との確執

床次竹二郎は、原敬の腹心として立憲政友会の有力者の一人でした。当時、鉄道の広軌改築の是非をめぐって政策論争となり、後藤新平や仙石貢は広軌化を推進しましたが、これは「改主建従」と呼ばれ、新線の建設よりも広軌化などが在来施設の改良を重視した政策でした。これに対して、立憲政友会は「建主



③「床次竹二郎之像」胸像
(鹿児島市中央町)

鹿児島中央駅の駅前広場に建っている。

改従」を主張し、広軌化よりも新線の建設を最優先し、路線の拡大を図るべきとしました。この論争は、政変のたびに浮沈を繰り返し、鉄道院総裁の座もこの両派で争うこととなり、結果的に床次は3度にわたって鉄道のトップとなりました。広軌改築計画は、1919(大正8)年に原内閣(床次鉄道院総裁)のもとで中止が決定してついに実現には至りませんでした。後藤新平と床次竹二郎の両者が、鉄道総研の講堂前で互いの視線を合わせることなく並ぶ様子は、当時の確執を象徴しています。

床次は、広軌改築を巡って後藤とは対立しましたが、後藤とともに鉄道従業員の待遇改善に積極的に取り組んだ人物として職員からも慕われ、国有鉄道現業委員会の設立による労使関係の改善をはじめ、共済組合の制度改善、鉄道教習所の拡充、職員慰安会や功績章制度の実現などに取り組みました。また、片岡調郎らによって設立が進められた鉄道弘済会は、1932(昭和7)年に床次鉄道大臣のもとで認可されました。



④生家があった城山トンネル付近の現在
後方が西南戦争の激戦地となった城山で、右側の白い建物の裏手に「誕生地」の石碑が建つ。手前は鹿児島本線。



⑤「床次竹二郎誕生地」の碑(鹿児島市新照院町)

床次は政友会から分裂した政友本党の総裁を務め、首相候補としてもしばしば名前が挙がっていましたが、原敬の暗殺などもあり、混乱した政局の間でついにその機会は訪れませんでした。

■鹿児島中央駅の胸像と城山トンネルの碑

朝倉文夫の塑像による床次竹二郎の胸像は、鉄道総研以外に、鹿児島中央駅の駅前広場にもあります。これは1978(昭和53)年10月11日に床次竹二郎顕彰碑建立推進会によって設置されたもので、「床次竹二郎之像」の揮

毫は当時の高木文雄国鉄総裁によるものです。

また、鹿児島市新照院町の生家の跡地は、鹿児島本線の鹿児島中央～鹿児島間にある城山トンネル鹿児島中央方の坑口付近にあり、「床次竹二郎誕生地」と記された記念碑が建立されています。

(小野田滋／情報管理部 担当部長)

文献

- 1) 前田連山編：床次竹二郎傳，床次竹二郎傳記刊行会，1939
- 2) 高坂盛彦：国鉄を企業にした男・片岡調郎伝，中央公論新社，2010